

檜の木だより

2018 10/1
第93号

ひとりひとりひかる

きぼろ

発行：檜の木福祉会（法人本部）
かしの木の会

一宮市富田字砂原 2147

Tel/Fax 0586-63-2111 / 61-1200

檜の木福祉会 ホームページ

[http : www.kasinoki.jp/](http://www.kasinoki.jp/)



檜の木盆踊り大会

8月10日（金）檜の木作業所にて檜の木盆踊り大会が開催されました。昨年は雷雨のため途中で中止となってしまいましたが、今年は好天に恵まれ無事開催することができました。

17時を過ぎるとたくさんの方が集まり模擬店を中心に賑わいをみせていました。模擬店は昨年と販売場所が若干変わりましたが、大きな混乱もなく皆さん買い物をすることができていたのでよかったです。

盆踊りの曲がかかると利用者さんたちが中心になって檜の周りで楽しく踊っていました。また花火が始まると皆さんの大きな歓声があり、綺麗な花火が夜空を包み込みました。

開催にあたり多くの関係者の協力によって今年も無事盆踊り大会を終えることができました。来年もまた檜の木盆踊り大会で皆様の笑顔が見られることを楽しみにしています。ありがとうございました。

檜の木作業所 戸田 政之

地域福祉コーナー

短期入所の在り方について考える 「困ったときの備え」と「困らないための備え」

「困ったときにはいつでもどうぞ」を保障するには、「いつでも利用できる場所」を作らなければならない。果たして「いつでも空いている事業」を作ることは可能なのだろうか。

かしの木の里には、「いつでも利用できる短期入所」の機能が求められている。相談支援事業所の作成するサービス等利用計画には、「家族不在時や緊急時など、困ったときに支援してほしい」というニーズが書かれていることが多い。それに対する支援の方法としては短期入所の認定を受けておくことになる。

家族の急な用事や病気などで、介護者が不在になることなど、暮らしの中ではあたりまえに起きる。けれども、そのようなあたりまえに起きることで、たちまち危機的な状況に陥ってしまうこともよくあること。そういったときの備えとして短期入所を月に7日間くらいは利用できるよう申請をしておくのが一般的のようだ。

しかしながら、いざというときの備えであるはずの短期入所が、実は何の備えにもなっていない場合が多い。なぜなら、利用者さんが実際の短期入所において、十分な安心・安全を経験しなければ、本来の備えとはならないからである。普段から練習を兼ねて定期的に利用したいと考えている人もあるが、事業所の立場からすると、練習のための利用をする人が増えれば増えるほど、必要ときに利用できる部屋がなくなってしまうことが心配になる。

初めて家族と離れて宿泊する機会が、家族みんなの一大事の時と重なってしまうことは、できれば避けさせてあげたい。ご本人さんにとっては、二重の緊急となって、余計に負担となってしまう。

緊急時に利用する場所は、よく知った人がいる、よく知った場所の方がいいに決まっている。短期入所事業者としては、みんなの緊急時なのだから、できるだけ手厚い支援を提供したい。そのためには、いつでも対応できるようスタッフの配置を厚くしておいたり、研修をしっかりとするなどして準備をしておきたい。家族にしても、ご本人さんの慣れた場所で、手厚い支援があるところの方が安

心に決まっている。

けれども、これがなかなか難しい。いつあるかわからない緊急のために、あらかじめスタッフ配置を厚くしておくことは難しく、短期入所の性質上、早朝深夜の支援が中心となるため、その時間の追加配置は簡単ではない。

昨年1年間、かしの木の里の短期入所は、「困ったときにはいつでもどうぞ」をできるだけ保障するため、職員間でいろいろな工夫をして、厳しい条件の人であっても、できる限り利用してもらえるよう相当の努力をしてきた。

たとえば、行動が激しく、夜もなかなか眠れない人の介護に疲れた家族にゆっくり眠ってもらうために短期入所を利用してもらう。そういう支えはとても重要なことだ。しかしそのような人が一時的であれ施設に泊まると、そこが暮らしの場であるもともとの利用者さんにしてみれば、日常を乱され一大事になることもある。もともとの住人のみなさんには、たいへん申し訳ないと思いつつ、そうは言っても困っているのだから断らず受け入れる。そうでなければ地域に「安心」を届けられない。

地域で生活している人にとって、困ったときに、必ず支えてくれるシステムがあるという前提で生活すると、困っても誰も支えてくれないという状況で生活するのでは、負担はずいぶん違ってくる。困ったときに何とかするシステムを最低限準備しておくことと、緊急時でも他の人に迷惑をかけなくてもすむことを両立できないか、そんなことをずっと考えてきた。

家族が困ったときに、ご本人さんは困らないための方法については、相談支援と連携し、具体的に考えておくことは絶対必要。事前に本人情報を得て、初めての利用を万全にできるようにしておく。嫌な印象を残さないよう、例えば、入浴や食事などの好きなことだけ利用してみる。事業所に余力のある時の情報をもらって、できるだけ体験をしていく。できれば、ご本人さんをよく知っている人にご一緒してもらって具体的な対応を伝えてもらう。できることは何でもやっておきたい。

どこまでいっても万全になどならないけれど、少なくとも、事業所のスタッフ全員が、困ったときでも困らないための支援ができる腕を上げる努力は続けていこうと思う。

(かしの木の里・野崎)

事業所コーナー ①

喫茶「らちえっと」の取り組み

喫茶「らちえっと」は、平成25年にオープンし、今年で5年目を迎えました。

昨年度からは、専属の利用者さん（3人）がこのお店で働くようになり、ようやく事業所本来の体制を確保することができました。

喫茶店を訪れるお客さまは、地元の方がほとんどですが、この頃はお隣の岐阜県にある事業所の皆さんも、わざわざ遠くからお越しいただいています。また、以前尾西グリーンプラザをよく利用されていた方も、常連客として当喫茶店をご愛顧いただいています。

このように、1つのかたちとして、喫茶「らちえっと」は檜の木福祉会が目指す地域との交流づくりに、おおいに貢献しています。



モーニングの一例

また、私たちは喫茶事業そのものが、そこで働く利用者さんにとって、やりがい感につながっていくことが大事であると考えます。

この頃では、利用者さんも積極的に、喫茶メニュー（だし巻き卵、シフォンケーキ）の調理などに取り組んでいます。

最後に、これからもたくさんのお客様にご利用いただき、売り上げを伸ばし、利用者さんが生きがいをもって働ける喫茶店（交流の場）をめざしていきたいと思ひます。

喫茶らちえっと 川口千鶴子

第3回 夢ぽけっとまつり

9月1日に「第3回夢ぽけっとまつり」を開催しました。夢ぽけっとまつりは、地域交流を目的とした貸室「夢ぽけっと」と、檜の木福祉会の利用者のことを広く知っていただく機会として開催しています。

今回は、プロヴァイオリニストで音楽療法士としても活動されている濱島秀行氏とピアニスト夏目順子氏をお招きし、ヴァイオリン・ピアノコンサートを行いました。70人ほどの来場があり、会場は満席で立ち見の方が出たため、急遽椅子を用意するほどの大盛況となりました。濱島先生からは、「利用者さんの笑顔が忘れられません。僕の力になりました。ありがとうございました。」とお言葉をいただきました。

「夢ぽけっと」では、利用者の方の作品展をおこないました。この作品展では、数ある魅力的な作品の中で選りすぐりを展示し、皆さんに感動していただけました。

模擬店販売では、かしの木の会や「らちえっと」を日ごろより応援して下さっている「らちえっと倶楽部」の方々、「らちえっと」の保護者の方々のご協力もあり、こちらも盛況となりました。

今回は、企画準備の段階から「らちえっと」ご利用者と話し合いを行い、みんなで一丸となって作り上げた「夢ぽけっとまつり」となりました。これからはらちえっとは、地域の方々との繋がりを大切に活動していきたいと思ひます。

らちえっと 橋口 幸



事業所コーナー ②

檜の木園

檜の木園は平成元年にスタートしました。現在は、「生活介護」と「就労継続B型」の事業所を行っています。富田にある「檜の木園」と萩原にある喫茶店「C a f e ふらっと」、合わせて43名の方が利用されています。利用されている皆様が充実感を持って過ごす場所になるよう取り組んでいます。

生活介護事業では、午前中は軽作業を行い、午後からは外出活動中心とした活動を行っています。周辺の様々な公園に出かけ、季節を感じいただき、楽しみながら体を動かす機会を提供しています。

就労継続B型事業は様々な作業に取り組み、その方に合った作業を少しずつ行い、本人がスキルアップできるよう工夫しています。仕事の一つとして、コーヒー移動販売があります。これはデリバリーサービスとして、指定の場所にドリンクを提供していくという仕事です。現在は、学校のPTAや老人施設の誕生日会、各種会議、お祭り等

にご依頼いただいております。この仕事は、お客様に直接「ありがとう」と言っていただけることもあり、利用者の方はとてもやりがいを持って取り組んでいます。また地域の方にも障害をお持ちの方と接する機会や頑張っている姿を見ていただける機会でもあります。喫茶店と合わせて、是非ご利用ください。

その他、バイタル等のチェック、リハビリ、運動器具の使用等、健康関連にも力を入れています。また、行事やレクレーションへの参加を通じて様々な体験ができるよう取り組んでいます。



看護師によるバイタルチェック

ご利用される方々には毎日を楽しく、健康的に過ごしていただきたいと思っています。ひとりひとりの笑顔を大切に、よりより事業所になればと思っています。

檜の木園 加藤 栄治

相談支援 ゆんたく

ゆんたくでは、一宮市の委託相談（旧尾西市、萩原町）、基幹相談支援センター（一宮市）、特定相談・障害児相談（計画相談）、一般相談（地域定着、地域移行）愛知県障害児等療育支援事業（一宮市・稲沢市）を行っています。

ゆんたくの相談員は、様々な役割や機能で日々、奮闘しております。相談支援の仕事は、ひとりで抱え込み悩んでしまう事も少なからずあります。必要な情報だけでなく、相談員の悩みも共有し、互いに相談できることが必要だと感じており、話し合う機会を持つようにしています。朝礼では今日の予定の確認や前日の会議や研修等の報告、サービスの情報などを共有します。また、ミニ会議として朝礼の時間では話せないような情報交換やケースの共有などスタッフ全員の力で考えられるようにしています。月末には、就業・生活支援センターすろーぷと合同で会議を行い、就労相談での情報は新鮮で勉強になる事もありますし、相談業務の課題に気づかされることもあります。

そして昨年度から新たに取り組んでいることがあります。それは、会議後に一人5分のプレゼン

を順番に行っていることです。職員は、得意分野の情報や自分の興味のあることをパワーポイント、プリント配布、紙芝居風、クイズ形式など、仕事に関係するもの、全く仕事に関係のないものまで個性豊かにプレゼンしてくれています。5分程度ということで始めましたが、30分以上になるスタッフも！仕事とは関係のない情報は無駄ではないかと考えがちですが、人とお話しすることが仕事の中心になります。相談される方の趣味嗜好も様々で幅広い知識や情報が、いつ役立つかわかりません。また、人前で話す事や会議の進行を担うこともあります。身近なスタッフの中で経験できる機会を作れたらと考えています。

さらに、事業所内の学習の機会として研修報告や事例検討会を行っています。相談支援の研修でも用いられている、野中方式での事例検討を試行錯誤しながらも皆で学習の機会にしています。

ゆんたく 夏井幸広



かしの木の会

「参加して良かった」かしの木音楽会 一宮ジュニアウィンドオーケストラを 招いて

まるで神さまからの贈り物のように、見事に梅雨の合間に到来した爽やかな晴天。そして、それを象徴するかのような演奏が、尾西グリーンプラザに響きました。6月17日（日）午後1時30分、かしの木の会主催による音楽会が開催されました。



開演にあたり、まずはかしの木の会の小杉副会長から開演の言葉があり、続いて榎の木福祉会理事長の北川登様からご挨拶をいただきました。

さて、音楽会のテーマは、「みんなでつなごう心の絆（きずな）」です。そして、今年の出演者は、『一宮ジュニアウィンドオーケストラ』の皆さんです。この音楽隊さんは、元々尾西市民オーケストラのホルン奏者井本さんが、「子供と大人が一緒に演奏できる場をつくろう」と、音楽仲間と呼びかけたことが結成のきっかけだそうです。



当日は、37人のメンバーが集合し、和気あいの雰囲気、参加者をまるで昔からの同胞のように巻き込み、演奏者・観客が一つ身となって楽しい時間を過ごすことができました。



「となりのトトロ」、「ドレミのうた」、「上を向いて歩こう」など、子供から大人まで馴染みのある曲が、“迫力”ときには“優しさ”、楽器を通して語られました。参加者も、演奏に合わせて手を叩いたり、身体を揺らさせたり、バトンなどを振ったりして全身でもって味わいました。



「楽器の紹介」のときは、丁寧に分かりやすく、ユーモアを交えて各々の楽器を紹介してくださいました。

事業所から用意してくださったパン、クッキー、コーヒーなどもよく売れました。

最後に、演奏会を企画、準備、実行していただいたボランティア・イベント委員・役員の皆様方、大変お疲れ様でした。こういう行事こそ、人生における1つの偉大な邂逅(かいこう)ではないかと、心から感動し、感謝し末文といたします。

イベント委員会 高松勉

第18回 かしの木フェスティバル 開催について

お知らせ

今年度は、開催日が第二日曜日の11月11日となり、臨時駐車場も一宮市立起小学校に変更しましたので、お越しの際は間違えのないよう、よろしくお願いします。

今年度も多くのイベント団体にご出演いただき会場を盛り上げていただいたり、出店も恒例のCOCOA番屋や他法人からの出店、フリーマーケット、スタンプラリーなど、楽しい催しものをたくさん用意しております。

もちろん福祉事業所ならではの催しとして、暗視ゴーグルを使用しての白杖体験や車椅子体験もあります。普段触れることのないものなので多くの方々に体験していただきたいと思っております。

かしの木フェスティバル

実行委員長 仙石

第18回
かしの木
フェスティバル

入場
無料

～つなごう てとて
ひろげよう みんなのわ～

2018年 11月11日 日
9:30～14:00 (雨天中止)
場所 富田山ひろば (尾西グリーンプラザ北)
臨時駐車場: 一宮市立起小学校グラウンド (シャトルバス随時運行)

お問い合わせ
かしの木フェスティバル事務局
(かしの木の里 南隣)
住所 494-0018 一宮市富田字砂原2147番地
TEL (0586) 63-2111 FAX (0586) 61-1200
MAIL fukusikai-]@Kasinoki.jp HP http://Kasinoki.jp

主催/ 櫻の木福祉会・かしの木の会 後援/ 一宮市、一宮市教育委員会、一宮市社会福祉協議会、一宮市尾西ボランティア連絡会

お知らせコーナー

福祉とボランティア活動展

日時・・10月20日(土) 13:00～16:00
21日(日) 10:00～15:30
場所・・一宮スポーツ文化センター

びさいまつり

日時・・10月27日(土)～28日(日)
9:30～16:00
場所・・尾西庁舎～尾西第一中学校周辺

稲沢福祉まつり

日時・・10月27日(土) 10:00～16:00
場所・・稲沢市勤労福祉会館

(行事予定 10月～12月)

ふくしのつどい

日時・・11月4日(日) 10:00～15:00
場所・・尾西商工会館

第18回 かしの木フェスティバル

日時・・11月11日(日) 9:30～14:00
場所・・富田山ひろば

西尾張ボランティアフェスティバル

日時・・12月16日(日) 10:30～15:30
場所・・愛西市親水公園 総合体育館